

# 自己点検・評価書

2025 年 11 月

仙台高等専門学校 評価室

## 実施の概要

### 目的

本自己点検・評価は、学校教育法第109条第1項（同法第123条に基づき準用）の規定に基づき、仙台高等専門学校自己点検・評価実施要項に従って実施するものである。本校における教育・研究、組織・運営並びに施設・設備の状況について自己点検・評価を実施し、その結果を検証し評価結果を活用することで、本校の活動の一層の活性化と水準の向上を図ることを目的とする。

### 自己点検・評価の方法

自己点検・評価の観点や項目は、本校の評価・改善統括室が定めている。今回の点検・評価の実施に先立ち、認証評価機関及び一般社団法人日本技術者教育認定機構（以下、「JABEE」という）が定める基準等に加えて、令和10年度に受審を予定する国立高専教育国際標準（以下、「KIS」という）の点検項目を参考にして、点検・評価項目の修正及び追加を行なっている。

今回の点検・評価では、各観点や項目に対して明確な根拠資料の作成及び収集の徹底に主眼を置き、各観点及び項目の自己評価は端的且つ簡潔な文章を付することとした。その実施においては、仙台高等専門学校自己点検・評価項目の項目に則り、各項目と関係する各種委員会・室及び所掌事務が根拠資料の作成及び収集を分担した。

### 自己点検・評価項目

自己点検・評価は、次頁に示す令和6年改訂の自己点検・評価項目に則り実施した。

令和元年 6 月 5 日 運営会議

令和 6 年 11 月 21 日 評価・改善統括室改正

令和 6 年 12 月 4 日 運営会議

## 仙台高等専門学校自己点検・評価項目

### 1. 教育

実験・実習・実技を通して早くから技術に触れ、興味・関心を高めた学生が科学的知識を学び、さらに高い技術を習得できる高等学校や大学とは異なる特色ある教育課程を通し、製造業を始めとする様々な分野において創造力ある技術者として将来活躍するための基礎となる知識と技術、さらには生涯にわたって学ぶ力を確実に身に付けられるように、以下の事項に関する目標に基づき仙台高等専門学校の教育実施体制を整備する。

#### (1) 入学者の確保

高等学校や大学とは異なる高等専門学校の特性や魅力について、中学生やその保護者、中学校教員、さらに広く社会における認識を高める広報活動を組織的に展開するとともに適切な入試を実施することによって、十分な資質を持った入学者を確保する。

- ① 準学士課程（編入学を含む）、専攻科課程それぞれに入学者に期待される人間像を定め、入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー、A P）に沿って適切な入学者選抜方法が採用されており、実際の学生の受入れが適切に実施されているか。
- ② A P に沿った学生を実際に受入れているかどうかを検証するための取組が行われ、検証結果を改善に役立てる体制が整備されているか。
- ③ 入学定員と実入学者数との関係の適正化について検証がなされており、その結果を入学者選抜の改善に役立てているか。

#### (2) 教育課程の編成と教育の成果

産業構造の変化や技術の高度化、少子化の進行、社会・産業・地域ニーズ等を踏まえた科学的思考を身につけた実践的・創造的技術者を養成するため、地域の特性を踏まえた教育・研究の個性化、活性化、高度化をより一層進展する。

高等学校段階における教育改革の動向も踏まえた「確かな学力」の向上を図るべく、教育課程の改善を促すための体制作りを推進する。

- ① 教育目標に基づき、A P、教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー、C P）、育成する人材像、卒業・修了の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー、D P）を定めており、社会の状況の変化等に応じて点検する体制が整備されているか。

- ② 準学士課程及び専攻科課程のC Pに基づき、教育課程の編成方針、教育・学習方法に関する方針、学習成果の評価方針が明確かつ具体的に示されており、その内容、水準等が適切であるか。  
また、専攻科課程においては、準学士課程の教育からの発展を考慮して教育課程が明確かつ具体的に示され、創造力、実践力等を育む教育方法の工夫が図られているか。
- ③ 準学士課程及び専攻科課程の教育課程を展開するにふさわしい授業形態、学習指導法等が、C Pに基づき科目間の連携等を図って体系的に編成され、授業科目の内容がD Pに基づき設定されているか。
- ④ 1年間の授業期間が原則として35週に渡るものとなっているか。科目毎のシラバスに履修単位科目・学修単位科目の区別、授業・学修時間、及び学修単位科目における授業時間外の学修について明示しているか。準学士課程の1学年から3学年においては、特別活動が合計90時間以上実施されているか。
- ⑤ 準学士課程及び専攻科課程のC P並びにD Pに基づき、成績評価・単位認定及び卒業・修了認定の基準が組織として策定され、評価及び認定が厳格かつ客観的に行われていることについて、組織的に確認しているか。
- ⑥ 成績評価・単位認定基準及び卒業・修了認定基準が学生へ周知されているか。また、成績に対する異議申立て制度が組織的に設けられているか。
- ⑦ 卒業及び修了時の学生・卒業生・修了生・進路先関係者等からの意見の聴取の結果から判断して、D Pに沿った学習・教育の成果が認められるか。

### (3) 優れた教育体制の確保

公募制などにより博士の学位を有する者や民間企業で実績をあげた者など優れた教育力を有する人材を教員として採用するとともに、本校以外の教育機関などにおいても勤務経験を積むことができるように多様な人事交流を積極的に図る。

また、ファカルティ・ディベロップメントなどの研修の組織的な実施や優秀な教員の表彰を始め、国内外の大学等で研究に専念する機会や国際学会に参加する機会を充実するなど、教員の教育力の継続的な向上に努める。

- ① 学校の教育に係る基本的な組織構成が、学校の目的に照らして適切なものであり、教育活動を展開する上で必要な運営体制が適切に整備されて機能しているか。
- ② 教育活動を展開するために必要な教員が適切に配置されているか。  
専攻科課程に必要な各分野の教育研究能力を有する専攻科担当教員が適切に配置されているか。  
また、教育活動を支援又は補助する者が適切に配置されているか。
- ③ 全教員の教育・研究活動に対して、学校による定期的な評価が行われ、把握された事項に対して、評価の目的に即した取組を行う仕組みがあるか。また、教員の採用及び昇任等に当たって、明確な基準や規定が定められ、それに従い適切な運用がなされているか。
- ④ 教員の教育能力や資質の向上を図る取組が組織的に行われているか。  
教育支援又は補助する者が担当する業務に応じて、研修等、必要な資質の維持、向上を図る取組が組織的に実施されているか。

#### (4) 教育の質保証と改善のためのシステム

教育・研究の経験や能力を結集して高等専門学校の特徴を踏まえた教育方法や教材などの開発や共有を進めるとともに、モデルコアカリキュラムに準拠した上で高等専門学校教育の質保証と高度化・特色化を図る。

教育方法の改善に関する取組を促進するため、特色ある効果的な取組の事例を蓄積し、学校全体でこれらを共有する。

学校教育法第123条において準用する同法第109条第1項に基づく自己点検・評価や同条第2項に基づく文部科学大臣の認証を受けた者による評価などを通じた教育の質の保証がなされるようにする。

実践的技術者を養成する上での学習の動機付けを強めるため、産業界等との連携体制の強化を支援するほか、学校の枠を超えた学生の交流活動を推進し、理工系の大学などの高等教育機関との有機的連携を深める。

- ① 各科目の到達目標に対する達成度をシラバス等に記載の評価方法と評価基準で評価し、かつ、全修了生が修了時点ですべての学習・教育到達目標を達成したことを点検・確認する体制が整備されているか。
- ② モデルコアカリキュラム到達目標を包含して設計されたカリキュラムが、DPを達成するために実施され、その成果を評価して組織的に改善するサイクルが機能しているか。
- ③ 科目間の連携等を図って教育方法の改善に関する取組を促進し、カリキュラムに基づく教育を円滑に実施する仕組みが整備され、機能しているか。
- ④ 教育の状況について、教育活動の実態を示すデータや資料が適切に収集・蓄積され、試験問題の作成指針に従った評価方法を適切に実施しており、それを確認する体制が整備されているか。
- ⑤ 教育方法の改善に関する取組の事例を蓄積し、学校全体でこれらを共有しているか。
- ⑥ 教育の質の向上のために、学外の各種機関との連携を深める努力をしているか。
- ⑦ 外部機関又は外部委員からなる組織による評価点検の結果に基づいて、教育活動を継続的に改善する仕組みを持ち、それに関する活動を行っているか。

#### (5) 学生支援・生活支援等

全国的な競技会の実施協力などを通して課外活動の振興を図るとともに、「豊かな人間性」の涵養を図るべく様々な体験活動の機会の充実に努める。

中学校卒業直後の学生を受入れ、かつ、相当数の学生が学寮生活を送っている特性を踏まえ、修学上の支援に加え進路選択や心身の健康等の生活上の支援を充実させる。

また、学寮などの学生支援施設の整備を計画的に進めるとともに、各種奨学金制度など学生支援に係る情報の提供体制を充実させる。

学生の進路支援体制を充実し、学生一人ひとりの適性と希望にあった指導を行う。

- ① 教育を実施する上での履修指導、学習の相談・助言等の学習支援体制が整備され、機能しているか。

- ② 学生の生活、健康、就職等進路に関する相談・助言体制及び各種ハラスメント等に関する相談・助言体制が整備され、機能しているか。
- ③ 就職や進学等の進路指導を含め、キャリア教育の体制が整備され、機能しているか。
- ④ 特別な支援が必要と考えられる学生への学習支援及び生活支援等を適切に行う体制が整備され、機能しているか。
- ⑤ 学生の課外活動が円滑に行われるよう、必要な支援体制等が整備され、機能しているか。
- ⑥ 学生寮を学生の生活及び勉学の場として整備しているか。
- ⑦ 学生に対する経済面での相談・助言・支援が行われているか。

## (6) 教育の内部保証システム

教育目標を達成するとともに教育の質を保証し、また、教育・研究活動の改善につなげてさらなる水準向上に結びつけるために、学校の教育・研究活動や管理運営について自己点検を行い公開する。

- ① 自己点検・評価の基準や方法に関する継続的見直しが行われているか。
- ② 自己点検・評価の結果を踏まえた対応措置について検討、立案、提案するための手順が規定されているか。
- ③ 内部質保証体制において承認された対応措置の計画を実施するための手順、進捗の確認、進捗状況に応じた対応を決定する手順が規定されているか。
- ④ 施設・設備、学生支援に関して行う自己点検・評価の方法が定められているか。
- ⑤ 在学生、卒業・修了時の学生、保護者、教職員、卒業生、企業等の意見聴取が行われ、自己点検・評価に反映されているか。
- ⑥ 点検結果が改善に結びついているか。
- ⑦ 年度計画、各委員会等の活動計画に対する実施状況が点検されているか。

## 2. 研究

教育内容を技術の進歩に即応させるとともに教員自らの創造性を高めるため、研究活動を活性化させる方策を講じる。

地域を中心とする産業界や地方公共団体との共同研究・受託研究への積極的な取組を促進するとともに、その成果の知的資産化に努める。

- ① 研究活動に関する目的等が適切に定められているか。
- ② 研究活動の目的等に照らして、研究体制及び支援体制が適切に整備され、機能しているか。
- ③ 研究活動の目的等に沿った成果が得られているか。
- ④ 研究活動等の実施状況や問題点を把握し、改善を図っていくための体制が整備され、機能しているか。

### 3. 社会との連携や国際交流

急速な社会経済のグローバル化に伴い、産業界のニーズに応える語学力や異文化理解力、リーダーシップ、マネジメント力等を備えグローバルに活躍できる技術者を育成する。

安全面に十分な配慮をしつつ、教員や学生の国際交流への積極的な取組を推進する。また、留学生の受入れについては受入れの推進及び受入数の増大を図るとともに、留学生が我が国の歴史・文化・社会に触れる機会を組織的に提供する。

仙台高等専門学校における共同研究などの成功事例を広く公開する。また、公開講座を充実させる方策を講じる。

#### (1) 社会との連携

- ① 地域貢献活動に関する目的等が適切に定められているか。
- ② 地域貢献活動の目的等に照らして、活動が計画的に実施されているか。
- ③ 地域貢献活動の実績や活動参加者等の満足度等から判断して、目的等に沿った活動の成果が認められるか。
- ④ 地域貢献活動に関する問題点を把握し、改善を図っていくための体制が整備され、機能しているか。

#### (2) 国際交流

- ① 国際交流に関する目的等が適切に定められているか。
- ② 国際交流の目的等に照らして、活動が計画的に実施されているか。
- ③ 国際交流の実績や活動参加者等の満足度等から判断して、目的等に沿った活動の成果が認められるか。
- ④ 国際交流に関する問題点を把握し、改善を図っていくための体制が整備され、機能しているか。
- ⑤ 学生に海外で学習する機会が提供され、有効に活用されているか。

### 4. 施設・設備

施設・設備の有効活用、適切な維持保全、運用管理を図るとともに、産業構造の変化や技術の進歩に対応した教育を行うため、耐震補強などの防災機能の強化を含む施設改修、設備更新など安全で快適な教育環境の整備を計画的に進める。その際、身体に障害を有する者への配慮や施設の長寿命化も考慮する。

教職員・学生の健康・安全を確保するため、実験・実習・実技に当たっての安全管理体制の整備を図る。

科学技術分野への男女共同参画を推進するため、修学・就業上の環境整備に関する方策を講じる。

- ① 学校において編成された教育・研究組織の運営及び教育課程に対応した施設・設備が整備され、適切な安全・衛生管理の下に有効に活用されているか。
- ② 教育内容、方法や学生のニーズに対応した ICT 環境が十分なセキュリティ管理の下に適切に整備され、有効に活用されているか。
- ③ 図書、学術雑誌、視聴覚資料その他の教育・研究上必要な資料が系統的に収集、整理されており、有効に活用されているか。

## 5. 管理運営

事務職員の資質の向上のため、国立大学法人などとの人事交流を積極的に行うとともに、必要な研修を計画的に実施する。

業務運営のために必要な情報セキュリティ対策を適切に推進するため、政府の方針を踏まえ、情報システム環境を整備する。

- ① 学校の目的を達成するために、教育・研究活動を将来にわたって適切かつ安定して遂行できるだけの財務基盤を有しており、活動の財務上の基礎として、適切な収支に係る計画等が策定され、履行されているか。また、学校の財務に係る監査等が適正に実施されているか。
- ② 学校の目的を達成するために必要な管理運営体制及び事務組織が整備され、機能しているか。また、外部の資源を積極的に活用しているか。
- ③ 学校の教育・研究活動等の状況やその活動の成果に関する情報を広く社会に提供しているか。

## 1. 教育

---

### (1) 入学者の確保

観点 1-(1)① 準学士課程（編入学を含む）、専攻科課程それぞれに入学者に期待される人間像を定め、入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー、以下「AP」という。）に沿って適切な入学者選抜方法が採用されており、実際の学生の受入れが適切に実施されているか。

◇担当部署：

入学試験委員会（入試係）

◇自己点検結果：

実施している

◇根拠資料：

資料 1-(1)①-01\_令和7年度本科学学生募集要項

資料 1-(1)①-02\_令和7年度本科学学生募集要項（特別選抜）

資料 1-(1)①-03\_令和7年度本科編入学生募集要項

資料 1-(1)①-04\_令和7年度専攻科学生募集要項

◇自己評価：

優秀な学生を受け入れるためにアドミッション・ポリシーに沿った入学者選抜方法を設定し、適切に実施している。

観点 1-(1)② APに沿った学生を実際に受入れているかどうかを検証するための取組が行われ、検証結果を改善に役立てる体制が整備されているか。

◇担当部署：

入学試験委員会（入試係）

◇自己点検結果：

整備している

◇根拠資料：

資料 1-(1)②-01\_学力検査による入学者の選抜における合否判定基準について

資料 1-(1)②-02\_推薦による入学者の選抜における合否判定基準について

資料 1-(1)②-03\_自己推薦による特別選抜における合否判定基準について

資料 1-(1)②-04\_帰国生特別選抜における合否判定基準について

資料 1-(1)②-05\_学力選抜成績分析表

資料 1-(1)②-06\_入学動機に関するアンケート調査集計結果

資料 1-(1)②-07\_入学試験委員会資料（抜粋）

◇自己評価：

入学者選抜の結果は、入学試験委員会においてアドミッション・ポリシーに沿っているかを毎年検討し、検証している。入学者アンケートの結果について、入試委員会で検証している。これらの結果に基づき、継続的に入学者選抜の改善に役立っている。

観点 1-(1)③ 入学定員と実入学者数との関係の適正化について検証がなされており、その結果を入学者選抜の改善に役立っているか。

◇担当部署：

入学試験委員会（入試係）

◇自己点検結果：

実施している

◇根拠資料：

資料 1-(1)③-01\_令和 7 年度本科入学者選抜実施結果

資料 1-(1)③-02\_令和 7 年度本科編入学者選抜実施結果

資料 1-(1)③-03\_令和 7 年度専攻科入学者選抜実施結果

資料 1-(1)③-04\_過去 5 年間の本科入学者選抜実施結果状況（R3～R7）

◇自己評価：

入試志願倍率は、令和 7 年度に I 類で定員割れとなったものの、学校全体では一定の水準を維持している。また、過去 5 年間の平均入学定員超過率は、設置基準に対して良好な数値となっている。

(2) 教育課程の編成と教育の成果

観点 1-(2)① 教育目標に基づき、A P、教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー、以下「C P」という。）、育成する人材像、卒業・修了の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー、以下「D P」という。）を定めており、社会の状況の変化等に応じて点検する体制が整備されているか。

◇担当部署：

教務企画室、専攻科企画室（学務係、教務係）

◇自己点検結果：

整備している

◇根拠資料：

資料 1-(2)①-01\_仙台高等専門学校学校概要 2024

資料 1-(2)①-02\_仙台高等専門学校学生便覧\_令和 6 年度

資料 1-(2)①-03\_3 つのポリシー見直し会議開催通知（II 類）

資料 1-(2)①-04\_専攻科募集要項 (<https://www.sendai-nct.ac.jp/admission/examination/senko-boshu/>)

資料 1-(2)①-05\_専攻科統括室・専攻科企画室規則

資料 1-(2)①-06\_ポリシーに関する審議（20250226 企画調整会議資料抜粋）

◇自己評価：

教育目標に基づき、A P、C P、D P を定めており、学生便覧及び募集要項に記載されているほか、ウェブページで公開している。また、各ポリシーについては、副校長やコース主任等による見直しのための会議を開催し、社会状況の変化等に応じて点検する体制を整備している。専攻科については、専攻科担当副校長を含む教職員で構成される専攻科企画室が教育目標との整合性及び各ポリシーの妥当性を社会の状況変化等に応じて点検する役割を担っている。

観点 1-(2)② 準学士課程及び専攻科課程の C P に基づき、教育課程の編成方針、教育・学習方法に関する方針、学習成果の評価方針が明確かつ具体的に示されており、その内容、水準等が適切であるか。

また、専攻科課程においては、準学士課程の教育からの発展を考慮して教育課程が明確かつ具体的に示され、想像力、実践力等を育む教育方法の工夫が図られているか。

◇担当部署：

教務企画室、専攻科企画室（学務係、教務係）

◇自己点検結果：

整備している

◇根拠資料：

資料 1-(2)①-01\_学校概要【再掲】

資料 1-(2)①-02\_学生便覧【再掲】

資料 1-(2)②-01\_専攻科履修の手引き

資料 1-(2)②-02\_JABEE プログラム表 4（情報電子システム工学専攻）

資料 1-(2)②-03\_JABEE プログラム表 4（生産システムデザイン工学専攻）

資料 1-(2)②-04\_創造工学演習シラバス（生産システムデザイン工学専攻）

各科目シラバス ([https://syllabus.kosen-k.go.jp/Pages/PublicDepartments?school\\_id=07](https://syllabus.kosen-k.go.jp/Pages/PublicDepartments?school_id=07))

◇自己評価：

科目構成は CP に基づいて編成されている。教育課程の編成方針は、本校学則第 4 章及び別表第 1～3 に示されている。教育・学習方法に関する方針や学習成果の評価方針は科目ごとにシラバス内で示されている。専攻科では、準学士課程からの接続について「授業科目の流れ」で明示している。また、想像力・実践力等を育む科目として生産システムデザイン工学専攻では創造工学演習を配置し、学生が自由な発想で実践的なものづくりを学ぶ環境を提供している。

観点 1-(2)③ 準学士課程及び専攻科課程の教育課程を展開するにふさわしい授業形態、学習指導法等が、CP に基づき科目間の連携等を図って体系的に編成され、授業科目の内容がDP に基づき設定されているか。

◇担当部署：

教務企画室、専攻科企画室（学務係、教務係）

◇自己点検結果：

整備している

◇根拠資料：

資料 1-(2)②-01\_専攻科履修の手引き【再掲】

資料 1-(2)②-02\_JABEE プログラム表 4（情報電子システム工学専攻）【再掲】

資料 1-(2)②-03\_JABEE プログラム表 4（生産システムデザイン工学専攻）【再掲】

資料 1-(2)③-01\_技術者倫理シラバス（生産システムデザイン工学専攻）

資料 1-(2)③-02\_インターンシップ A・B シラバス（生産システムデザイン工学専攻）

資料 1-(2)②-03\_創造工学演習シラバス【再掲】

各科目シラバス、カリキュラムマップ

([https://syllabus.kosen-k.go.jp/Pages/PublicDepartments?school\\_id=07](https://syllabus.kosen-k.go.jp/Pages/PublicDepartments?school_id=07))

◇自己評価：

授業形態、学習指導法、科目間連携等については、各科目のシラバス及びカリキュラムマップにより示されており、DP に記載されている項目は必修科目の内容に盛り込まれている。専攻科課程では、各科目のシラバスに基づき、科目間の連携が「授業科目の流れ」に明示されている。DP に記載されている項目はすべて必修科目の内容に盛り込まれており、これらの履修を通して修得する。準学士課程については、カリキュラムマップ作成の検討を開始している。

観点 1-(2)④ 1年間の授業期間が原則として35週にわたるものとなっているか。科目毎のシラバスに履修単位科目・学修単位科目の区別、授業・学修時間、及び学修単位科目における授業時間外の学修について明示しているか。準学士課程の1学年から3学年においては、特別活動が合計90時間以上実施されているか。

◇担当部署：

教務企画室、専攻科企画室（学務係、教務係）

◇自己点検結果：

整備している

◇根拠資料：

資料 1-(2)①-02\_学生便覧【再掲】

資料 1-(2)②-01\_専攻科履修の手引き【再掲】

資料 1-(2)④-01\_令和6年度行事予定表

資料 1-(2)④-02\_令和6年度時間割

各科目シラバス ([https://syllabus.kosen-k.go.jp/Pages/PublicDepartments?school\\_id=07](https://syllabus.kosen-k.go.jp/Pages/PublicDepartments?school_id=07))

◇自己評価：

授業期間は、行事予定表のとおり確保されている。時間数と単位数の関係については学生便覧や専攻科履修の手引きに記載しており、各科目のシラバスには必要事項が明記されている。特別活動については、時間割に記載のとおり、1学年から3学年において、毎週実施し、合計90時間以上となるよう設定されている。

観点 1-(2)⑤ 準学士課程及び専攻科課程のCP並びにDPに基づき、成績評価・単位認定及び卒業・修了認定の基準が組織として策定され、評価及び認定が厳格かつ客観的に行われていることについて、組織的に確認しているか。

◇担当部署：

教務企画室、専攻科企画室（学務係、教務係）

◇自己点検結果：

名取教務：整備している

◇根拠資料：

資料 1-(2)①-01\_学校概要【再掲】

資料 1-(2)①-02\_学生便覧【再掲】

資料 1-(2)⑤-01\_学業成績の評価並びに学年の課程の修了及び卒業の認定に関する細則

資料 1-(2)⑤-02\_令和 6 年度進級認定会議資料

資料 1-(2)⑤-03\_令和 6 年度卒業認定会議資料

資料 1-(2)⑤-04\_令和 6 年度修了認定会議資料（生産システムデザイン工学専攻）

◇自己評価：

C P、D Pに基づき、成績評価・単位認定及び卒業認定の基準に関する細則を策定している。進級・卒業認定会議で厳格かつ客観的に評価及び認定を行っている。専攻科の修了認定基準はD Pに明記されており、修了は修了認定会議により厳格に判断されている。

観点 1-(2)⑥ 成績評価・単位認定基準及び卒業・修了認定基準が学生へ周知されているか。また、成績に対する異議申し立て制度が組織的に設けられているか。

◇担当部署：

教務企画室、専攻科企画室（学務係、教務係）

◇自己点検結果：

整備している

◇根拠資料：

資料 1-(2)①-02\_学生便覧【再掲】

資料 1-(2)②-01\_専攻科履修の手引き【再掲】

資料 1-(2)⑥-01\_成績確認期間通知メール

各科目シラバス ([https://syllabus.kosen-k.go.jp/Pages/PublicDepartments?school\\_id=07](https://syllabus.kosen-k.go.jp/Pages/PublicDepartments?school_id=07))

資料 1-(2)⑥-02\_専攻科 1 年生オリエンテーション資料（生産システムデザイン工学専攻）

資料 1-(2)⑥-03\_専攻科 2 年生オリエンテーション資料（生産システムデザイン工学専攻）

◇自己評価：

成績評価・単位認定基準及び卒業・修了認定基準は学生便覧により学生へ周知している。また、各試験期間後には、学生が成績に対する異議申し立てを行うことができる成績確認期間を設けている。

専攻科についても、成績評価基準は各シラバスに明記されている。修了認定基準は学生便覧に明記されている。成績に対する異議申し立てについては、現状でも科目毎に対応しているものの、現段階では制度として学生への周知が不十分であり、学生への周知を早期に対応する予定である。

観点 1-(2)⑦ 卒業及び修了時の学生・卒業生・修了生・進路先関係者等からの意見の聴取の結果から判断して、D Pに沿った学習・教育の成果が認められるか。

◇担当部署：  
評価室（企画運営係）

◇自己点検結果：  
成果が認められる

◇根拠資料：  
資料 1-(2)⑦-01\_令和 5 年度卒業生・修了生アンケート調査結果  
資料 1-(2)⑦-02\_同窓生アンケート結果\_2023.6 実施  
資料 1-(2)⑦-03\_企業アンケート調査\_2023.6 実施

◇自己評価：  
卒業生・修了生アンケート調査の結果から、DP の達成度について、身に付いたとの回答が多い。  
企業アンケート調査の結果によると、本校卒業生の能力は高く評価されている。

### （3） 優れた教育体制の確保

観点 1-(3)① 学校の教育に係る基本的な組織構成が、学校の目的に照らして適切なものであり、教育活動を展開する上で必要な運営体制が適切に整備されて機能しているか。

◇担当部署：  
総務担当副校長（総務係）

◇自己点検結果：  
整備している

◇根拠資料：  
資料 1-(3)①-01\_組織図、運営組織図、運営体制図（学校概要抜粋）  
資料 1-(3)①-02\_令和 6 年度副校長等一覧及び各種委員会名簿

◇自己評価：  
組織構成及び運営体制は適切である。

観点 1-(3)② 教育活動を展開するために必要な教員が適切に配置されているか。  
専攻科課程に必要な各分野の教育研究能力を有する専攻科担当教員が適切に配置されているか。  
また、教育活動を支援又は補助する者が適切に配置されているか。

◇担当部署：

教員人事委員会（総務課長補佐、人事・労務係）、専攻科企画室（企画運営係、研究支援係）

◇自己点検結果：

整備している

◇根拠資料：

資料 1-(3)②-01\_教員数一覧、職員数一覧（学校概要抜粋）

資料 1-(3)②-02\_令和 6 年度非常勤講師一覧

資料 1-(3)②-03\_学修総まとめ科目実施計画書(個表)テーマ一覧（専攻科）

◇自己評価：

教員配置は適切である。

観点 1-(3)③ 全教員の教育・研究活動に対して、学校による定期的な評価が行われ、把握された事項に対して、評価の目的に即した取組を行う仕組みがあるか。

また、教員の採用及び昇任等に当たって、明確な基準や規定が定められ、それに従い適切な運用がなされているか。

◇担当部署：

教員人事委員会（総務課長補佐、人事・労務係）

◇自己点検結果：

実施している

◇根拠資料：

資料 1-(3)③-01\_令和 4 年度人事評価方針

資料 1-(3)③-02\_表彰規則

資料 1-(3)③-03\_表彰規則取扱い

資料 1-(3)③-04\_教員選考規則

資料 1-(3)③-05\_教員選考に関する申し合わせ

資料 1-(3)③-06\_教員の昇任にかかる審査等の取扱いについて

資料 1-(3)③-07\_研究業績の書式等について

資料 1-(3)③-08\_教育業績書

◇自己評価：

教員の教育活動については、多様な形態で評価している。

教員の採用については、教員選考規則に明確に定め、教員選考委員会により公募を行い、適切に実施している。

教員の昇任については、昇任基準を明確に定め、教員選考委員会により適切に実施している。

観点 1-(3)④ 教員の教育能力や資質の向上を図る取組が組織的に行われているか。

教育支援又は補助する者が担当する業務に応じて、研修等、必要な資質の維持、向上を図る取組が組織的に実施されているか。

◇担当部署：

FD 室（人事・労務係）

◇自己点検結果：

実施している

◇根拠資料：

資料 1-(3)④-01\_FD 室規則

資料 1-(3)④-02\_令和 6 年度 FD・SD 年間実施状況（20250723 企画調整会議資料抜粋）

◇自己評価：

FD 室において、教員の質向上を目指し、定期的に FD 研修・講演会等を実施している。

#### （4） 教育の質保証と改善のためのシステム

観点 1-(4)① 各科目の到達目標に対する達成度をシラバス等に記載の評価方法と評価基準で評価し、かつ、全修了生が修了時点ですべての学修・教育到達目標を達成したことを点検・確認する体制が整備されているか。

◇担当部署：

評価室（企画運営係）

◇自己点検結果：

体制を整備している

◇根拠資料：

資料 1-(4)①-01\_仙台高等専門学校卒業認定会議規則

資料 1-(4)①-02\_卒業認定会議資料

資料 1-(4)①-03\_学習等達成度記録・授業評価システムへの入力

各科目シラバス [https://syllabus.kosen-k.go.jp/Pages/PublicDepartments?school\\_id=07](https://syllabus.kosen-k.go.jp/Pages/PublicDepartments?school_id=07)

◇自己評価：

各科目のシラバスは Web で公開され、到達目標や評価方法が明記されている。課程の修了は、全教員が出席する卒業認定会議で点検・確認している。

また、学生には毎年学年末に学習等達成度記録を入力させ、達成度を確認している。

観点 1-(4)② モデルコアカリキュラム到達目標を包含して設計されたカリキュラムが、DP を達成するために実施され、その成果を評価して組織的に改善するサイクルが機能しているか。

◇担当部署：

教務企画室、専攻科企画室（学務係、教務係）

◇自己点検結果：

実施している

◇根拠資料：

資料 1-(4)②-01\_JABEE 表 3（情報電子システム工学専攻）

資料 1-(2)②-02\_JABEE プログラム表 4（情報電子システム工学専攻）【再掲】

資料 1-(2)②-03\_JABEE プログラム表 4（生産システムデザイン工学専攻）【再掲】

資料 1-(2)②-01\_専攻科履修の手引き（生産システムデザイン工学専攻）【再掲】

本年度開講科目とモデルコアカリキュラムの対応

([https://syllabus.kosen-k.go.jp/Pages/PublicSubjectMapping?school\\_id=07&department\\_id=10&year=2024&lang=ja](https://syllabus.kosen-k.go.jp/Pages/PublicSubjectMapping?school_id=07&department_id=10&year=2024&lang=ja))

資料 1-(4)②-03\_カリキュラム WG 資料（II 類、III 類）

◇自己評価：

モデルコアカリキュラムと開講科目との対応は Web で公開されており、到達目標を包含しつつ DP を達成するよう科目が配置されている。

専攻科はモデルコアカリキュラムの対象外であるが、本科のモデルコアカリキュラム到達目標を包含しつつ、専攻科 DP を達成すべく科目が配置されている。また JABEE 学習・教育到達目標は専攻科 DP と統一しており、JABEE におけるカリキュラム設計方針やカリキュラムマップは JABEE 教育プログラムだけでなく、専攻科 DP を達成するための CP とも連携している。評価と改善は専攻科担当副校長を含む教職員で構成される専攻科企画室が検討する。

II 類改組に際して検討が進められたカリキュラム検討では、各コース等の代表教員により構成されたカリキュラム WG により、旧コースの課題を洗い出し、モデルコアカリキュラム到達目標を包含したカリキュラムを設計した。この新たなカリキュラムが DP を達成するために実施されている。

観点 1-(4)③ 科目間の連携等を図って教育方法の改善に関する取組を促進し、カリキュラムに基づく教育を円滑に実施する仕組みが整備され、機能しているか。

◇担当部署：

教務企画室、専攻科企画室（学務係、教務係）

◇自己点検結果：

整備している

◇根拠資料：

資料 1-(2)②-02\_JABEE プログラム表 4（情報電子システム工学専攻）【再掲】

資料 1-(2)②-03\_JABEE プログラム表 4（生産システムデザイン工学専攻）【再掲】

資料 1-(4)③-01\_科目グループ構成メンバー表（I類）

資料 1-(4)③-02\_科目グループに関する資料（I類）

資料 1-(4)③-03\_令和 6 年度教務便覧（1.9 シラバス入力抜粋）（名取）

資料 1-(4)②-03\_カリキュラム WG 資料（II類, III類）【再掲】

◇自己評価：

カリキュラム WG により、科目間の連携等を図って教育方法の改善に関する取組を促進し、カリキュラムに基づく教育を円滑に実施する仕組みを整備している。科目間連携については本科と専攻科ともに科目グループで行っている。「授業科目の流れ」に明記されており、それを踏まえたシラバス作成を各教員に依頼している。

観点 1-(4)④ 教育の状況について、教育活動の実態を示すデータや資料が適切に収集・蓄積され、試験問題の作成指針に従った評価方法を適切に実施しており、それを確認する体制が整備されているか。

◇担当部署：

教務企画室、専攻科企画室（学務係、教務係）

◇自己点検結果：

整備している

◇根拠資料：

資料 1-(4)④-01\_授業エビデンス提出依頼文書

資料 1-(4)④-02\_授業エビデンス保管状況（広瀬）

資料 1-(4)④-03\_エビデンス保管状況シート説明記入要領（名取）

◇自己評価：

広瀬キャンパスでは、本科・専攻科ともに評価室が授業エビデンスの収集と保管を行っている。専攻科担当副校長をはじめ、専攻科企画室教員が授業エビデンスの内容確認を行っている。

名取キャンパスでは、成績評価の根拠を教員個々が 10 年間保存することとし、保存状況を情報共有している。試験問題の指針については教員会議等で周知しており、定期試験（追試験、再試験含む）の問題は 10 年間保存している。

観点 1-(4)⑤ 教育方法の改善に関する取組の事例を蓄積し、学校全体でこれらを共有しているか。

◇担当部署：

FD 室（人事・労務係）

◇自己点検結果：

実施している

◇根拠資料：

資料 1-(3)④-02\_令和 6 年度 FD・SD 年間実施状況（20250723 企画調整会議資料抜粋）

◇自己評価：

資料に示したとおり、本校 FD 室が主管して研修会を開催している。さらに、高専機構本部、人事院東北事務局、大学等が主管する FD・SD 研修にも多くの教職員が参加し、必要な情報は教職員全体または室や委員会を通じて共有されている。

観点 1-(4)⑥ 教育の質の向上のために、学外の各種機関との連携を深める努力をしているか。

◇担当部署：

企画室（連携・国際交流係）、教務企画室、専攻科企画室（学務係、教務係）

◇自己点検結果：

実施している

◇根拠資料：

資料 1-(4)⑥-01\_課題解決型インターンシップ実施要項

資料 1-(4)⑥-02\_令和 6 年度課題解決型インターンシップ一覧（20241009 運営会議資料抜粋）

◇自己評価：

課題会解決型インターンシップを実施し、学外の企業や大学との連携を深めている。

観点 1-(4)⑦ 外部機関又は外部委員からなる組織による評価点検の結果に基づいて、教育活動を継続的に改善する仕組みを持ち、それに関する活動を行っているか。

◇担当部署：

評価・改善統括室（企画運営係）

◇自己点検結果：

実施している

◇根拠資料：

資料 1-(4)⑦-01\_令和 5 年度機関別認証評価報告書

資料 1-(4)⑦-02\_仙台高等専門学校運営諮問会議規則

資料 1-(4)⑦-03\_仙台高等専門学校改善室規則

◇自己評価：

法令に基づき、大学改革支援・学位授与機構による機関別認証評価を受審している（令和 5 年度）。また、外部有識者による提言や助言のために運営諮問会議を設置し、毎年 1 回実施している。改善が必要と認められる事項の整理と分析は改善室が担当している。

（5） 学生支援・生活支援等

観点 1-(5)① 教育を実施する上での履修指導、学習の相談・助言等の学習支援体制が整備され、機能しているか。

◇担当部署：

教務企画室、専攻科企画室（学務係、教務係）

◇自己点検結果：

整備している

◇根拠資料：

資料 1-(5)①-01\_4 月 8 日の日程について\_メール（広瀬）

- 資料 1-(5)①-02\_年度末及び新年度 4 月の日程（名取）
- 資料 1-(5)①-03\_教務主事説明資料\_始業式（広瀬）
- 資料 1-(5)①-04\_教務主事説明資料\_始業式（名取）
- 資料 1-(5)①-05\_非常勤講師一覧
- 資料 1-(5)①-06\_専攻科インターンシップガイダンス資料（生産システムデザイン工学専攻）
- 資料 1-(5)①-08\_学位授与申請説明会資料（生産システムデザイン工学専攻）
- 資料 1-(2)⑥-02\_専攻科 1 年生オリエンテーション資料（生産システムデザイン工学専攻）【再掲】
- 資料 1-(2)⑥-03\_専攻科 2 年生オリエンテーション資料（生産システムデザイン工学専攻）【再掲】

◇自己評価：

教育を実施する上での履修指導を入学時のオリエンテーション及び毎年の始業式で行っている。学習の相談や助言等の学習支援体制は、教育コーディネーターの配置により整備している。専攻科の履修指導や学習支援体制についてはオリエンテーション、学位申請に関する説明会等で説明し、実践している。

観点 1-(5)② 学生の生活、健康、就職等進路に関する相談・助言体制及び各種ハラスメント等に関する相談・助言体制が整備され、機能しているか。

◇担当部署：

学生相談室委員会（学生係、学生生活係）

◇自己点検結果：

整備している

◇根拠資料：

- 資料 1-(5)②-01\_令和 6 年度学生相談室体制
- 資料 1-(5)②-02\_令和 6 年度ハラスメント相談員一覧
- 資料 1-(5)②-03\_進路支援ガイダンス資料（広瀬）
- 資料 1-(5)②-04\_就職・進学のためのガイドブック（名取）
- 資料 1-(5)②-05\_本校の組織
- 資料 1-(5)②-06\_学生相談室（学生便覧抜粋）

◇自己評価：

支援体制として、常勤・非常勤のカウンセラー、SSW、ハラスメント相談員を学内の各部署に配置して、毎日相談を受けられる体制を整えている。就職や進路に関する相談にはキャリア教育推進室を設置し、各コースの教員から選出された相談員が対応している。これらの体制は十分に整備され、機能している。

観点 1-(5)③ 就職や進学等の進路指導を含め、キャリア教育の体制が整備され、機能しているか。

◇担当部署：

教務企画室、学生支援室（学務係、教務係、学生係、学生支援係）、キャリア支援室

◇自己点検結果：

整備している

◇根拠資料：

資料 1-(5)②-03\_進路支援ガイダンス資料【再掲】

資料 1-(5)②-04\_就職・進学のためのガイドブック【再掲】

資料 1-(5)②-05\_本校の組織【再掲】

資料 1-(5)③-01\_進路ガイダンス開催通知\_メール（名取）

資料 1-(5)③-02\_令和 6 年度就職対策会議議事要旨（名取）

資料 1-(5)③-03\_求人票の公開等について（名取）

資料 1-(5)③-04\_企業等採用試験報告書（広瀬）

資料 1-(5)③-05\_編入学／大学院入学試験報告書

キャリア支援セミナー等の開催 (<https://www.sendai-nct.ac.jp/s20240206/>)

◇自己評価：

キャリア教育は、キャリア教育推進室が中心となって方針を策定し、進路ガイダンスや講演会、進路関連の資料配布、学生への求人情報等の公開、面談などを継続的に実施し、学生の円滑な就職・進学を支援している。

観点 1-(5)④ 特別な支援が必要と考えられる学生への学習支援及び生活支援等を適切に行う体制が整備され、機能しているか。

◇担当部署：

学生相談室委員会（学生係、学生生活係）

◇自己点検結果：

整備している

◇根拠資料：

資料 1-(5)②-06\_学生便覧（学生相談室）【再掲】

資料 1-(5)④-01\_修学上の合理的配慮の提供に関する対応

資料 1-(5)②-01\_令和 6 年度学生相談室体制【再掲】

学生相談室 (<https://www.sendai-nct.ac.jp/counseling/>)

◇自己評価：

学生相談は、学生便覧やオリエンテーションで分かりやすく案内されており、教員、カウンセラー、看護師等からなる学生相談体制が組織されている。修学上の配慮について、事前相談体制を整え、合理的配慮の支援体制を構築して実施している。生活にも支援が必要な学生には、合理的配慮と並行して SSW による面談等を行い、学習と生活両面からの支援している。

観点 1-(5)⑤ 学生の課外活動が円滑に行われるよう、必要な支援体制等が整備され、機能しているか。

◇担当部署：

学生支援室（学生係、学生支援係）

◇自己点検結果：

機能している

◇根拠資料：

資料 1-(5)⑤-01\_学生会の体制（学生便覧、学生準則抜粋）

資料 1-(5)⑤-02\_クラブ等顧問一覧

資料 1-(5)⑤-03\_施設（設備等）使用願（広瀬）

資料 1-(5)⑤-04\_対外試合等参加願（広瀬）

資料 1-(5)⑤-05\_課外活動便覧（名取）

資料 1-(5)⑤-06\_クラブ年間活動計画書・活動報告書（名取）

資料 1-(5)⑤-07\_仙台高等専門学校の課外活動の在り方に関する方針

資料 1-(5)⑤-08\_後援会総会資料（広瀬）

資料 1-(5)⑤-09\_後援会事業報告（名取）

◇自己評価：

課外活動や学生会行事では、顧問教員の指導の下、学生が主体的に活動できる環境が整備され、教員や後援会による多面的な支援体制も機能している。学生会組織として運動部・文化部を中心とするクラブ等が設置され、年間活動計画に従って活動が行われている。課外活動の在り方に関する方針を制定している。また、指導や助言を行うクラブ等顧問向けに、必要な情報を集約した「課外活動便覧」を作成している。後援会による経済面での支援も実施している。

観点 1-(5)⑥ 学生寮を学生の生活及び勉学の場として整備しているか。

◇担当部署：

寮生支援室（学生係、学生生活係）

◇自己点検結果：

整備している

◇根拠資料：

資料 1-(5)⑥-01\_仙台高等専門学校学寮規則

資料 1-(5)⑥-02\_学生寮（学生便覧抜粋）

資料 1-(5)⑥-03\_仙台高等専門学校広瀬キャンパス学寮内規（広瀬）

資料 1-(5)⑥-04\_仙台高等専門学校名取キャンパス学寮内規（名取）

資料 1-(5)⑥-05\_令和 6 年度寮生活の手引\_松韻寮（広瀬）

資料 1-(5)⑥-06\_令和 6 年度寮生活のしおり\_萩花寮（名取）

◇自己評価：

寮務主事を中心とした寮生支援室の指導の下、寮生が自主的に運営し、規律ある共同生活を通じて人間形成を育む施設として運用している。勉学面では、自習室を整備し、決まった学習時間を設けることで学習環境を整えている。

観点 1-(5)⑦ 学生に対する経済面での相談・助言・支援が行われているか。

◇担当部署：

学生支援室（学生係、学生支援係）

◇自己点検結果：

実施している

◇根拠資料：

資料 1-(5)⑦-01\_授業料・奨学金（学生便覧抜粋、HP）

資料 1-(5)⑦-02\_授業料・奨学金関連（通知、掲示）

資料 1-(5)⑦-03\_授業料免除及び奨学金（学生便覧抜粋）

資料 1-(5)⑦-04\_令和 6 年度前期分授業料免除、徴収猶予及び月割分納の申請について  
授業料免除及び奨学金 (<https://www.sendai-nct.ac.jp/admission/fee/fee-reference/>)

令和 6 年度前期分授業料免除、徴収猶予及び月割分納の申請について (<https://www.sendai-nct.ac.jp/s20240405/>)

◇自己評価：

学生便覧やホームページ、掲示板に授業料免除や奨学金制度に関する情報を掲載し、周知している。

また、対象学生や保護者へ郵送やメール等で通知するほか、学務課・学生課の窓口で学生や保護者の個別相談にも応じている。

## (6) 教育の内部保証システム

観点 1-(6)① 自己点検・評価の基準や方法に関する継続的見直しが行われているか。

◇担当部署：

評価室（企画運営係）

◇自己点検結果：

見直しを行っている

◇根拠資料：

資料 1-(6)①-01\_仙台高等専門学校自己点検・評価項目

◇自己評価：

機関別認証評価の評価基準改訂等を踏まえ、令和6年度に自己点検・評価項目を改正した。

観点 1-(6)② 自己点検・評価の結果を踏まえた対応措置について検討、立案、提案するための手順が規定されているか。

◇担当部署：

改善室（企画運営係）

◇自己点検結果：

手順を規定している

◇根拠資料：

資料 1-(6)②-01\_仙台高等専門学校評価室規則

資料 1-(4)⑦-03\_仙台高等専門学校改善室規則【再掲】

◇自己評価：

自己点検及び評価は評価室が実施することとしている。また、自己点検及び評価により改善が必要と認められる事項の整理及び分析を改善室が行うこととしている。

観点 1-(6)③ 内部質保証体制において承認された対応措置の計画を実施するための手順、進捗の確認、進捗状況に応じた対応を決定する手順が規定されているか。

◇担当部署：

評価・改善統括室（企画運営係）

◇自己点検結果：

手順を規定している

◇根拠資料：

資料 1-(6)③-01\_仙台高等専門学校自己点検・評価実施要項

◇自己評価：

校長は、関係委員会等に対し、改善を要請することとしている。また、改善実施の成果、対応等を勘案し、必要な措置を講ずるものとしている。

観点 1-(6)④ 施設・整備、学生支援に関して行う自己点検・評価の方法が定められているか。

◇担当部署：

評価室（企画運営係）

◇自己点検結果：

定めている

◇根拠資料：

資料 1-(6)①-01\_仙台高等専門学校自己点検・評価項目

◇自己評価：

仙台高専自己点検・評価項目において、施設・設備、学生支援・生活支援等を項目として定めている。

観点 1-(6)⑤ 在学生、卒業・修了時の学生、保護者、教職員、卒業生、企業等の意見聴取が行われ、自己点検・評価に反映されているか。

◇担当部署：  
評価室（企画運営係）

◇自己点検結果：  
意見聴取を行っている

◇根拠資料：  
資料 1-(6)⑤-01\_授業評価アンケート結果【再掲】  
資料 1-(2)⑦-01\_卒業生・修了生アンケート調査結果【再掲】  
資料 1-(6)⑤-02\_後援会総会書面審議の結果  
資料 1-(6)⑤-03\_教員面談実施関係資料  
資料 1-(6)⑤-04\_職員面談実施関係資料  
資料 1-(2)⑦-02\_同窓生アンケート結果【再掲】  
資料 1-(2)⑦-03\_企業アンケート調査【再掲】

◇自己評価：  
在学生、卒業・修了時の学生、保護者、卒業生、産学連携振興会会員企業等に対しアンケートを実施している。また、教員からは校長との面談時に意見を聴取している。

観点 1-(6)⑥ 点検結果が改善に結びついているか。

◇担当部署：  
改善室（企画運営係）

◇自己点検結果：  
改善事項が認識され、改善に向けた活動に結びついている

◇根拠資料：  
資料 1-(6)⑥-01\_改善報告書

◇自己評価：  
自己点検・評価の結果、改善が必要と判断した事項については、関係部署における改善状況を改善報告書としてまとめている。

観点 1-(6)⑦ 年度計画、各委員会等の活動計画に対する実施状況が点検されているか。

◇担当部署：  
評価室（企画運営係）

◇自己点検結果：  
点検されている

◇根拠資料：  
資料 1-(6)⑦-01\_年度計画の実績調査について\_メール審議  
資料 1-(6)⑦-02\_組織目標と計画及び実績報告書の提出

◇自己評価：  
年度計画に対する実績は、関係部署でまとめた後、運営会議構成員が確認している。学内の各組織は、前年度の実績報告を作成し、校長によるヒアリングを受けている。

## 2. 研究

---

観点 2-① 研究活動に関する目的等が適切に定められているか。

◇担当部署：  
研究戦略企画センター（研究支援係、企画運営係）

◇自己点検結果：  
定めている

◇根拠資料：  
資料 2-①-01\_仙台高等専門学校における研究活動・地域貢献活動の目的、基本方針  
資料 2-①-02\_仙台高等専門学校研究戦略企画センター規則  
資料 2-①-03\_令和 6 年度組織の目標と計画（研究戦略企画センター）

◇自己評価：  
研究活動に関する目的等が適切に定められていることを根拠資料で確認した。

観点 2-② 研究活動の目的等に照らして、研究体制及び支援体制が適切に整備され、機能しているか。

◇担当部署：

研究戦略企画センター（研究支援係、企画運営係）

◇自己点検結果：

整備、機能している

◇根拠資料：

資料 2-②-01\_各高専科研費目標調査

資料 2-②-02\_令和 7（2025）年度科研費申請意向等確認について

資料 2-②-03\_科研費申請について（令和 6 年 6 月 5 日運営会議資料抜粋）

資料 2-②-04\_外部資金獲得活動（令和 7 年 2 月 5 日運営会議資料抜粋）

資料 2-②-05\_研究戦略企画センターNews

◇自己評価：

研究活動の目的等に照らし、研究体制及び支援体制が適切に整備され、機能していることを根拠資料で確認した。

観点 2-③ 研究活動の目的等に沿った成果が得られているか。

◇担当部署：

研究戦略企画センター（研究支援係、企画運営係）

◇自己点検結果：

成果が得られている

◇根拠資料：

資料 2-③-01\_令和 6 年 10 月 9 日運営会議資料（科研費申請者数等）

資料 2-③-02\_【JSPS 公表資料】研究者が所属する研究機関別 採択件数・配分一覧（令和 6 年度）  
国立高専のみ抽出

資料 2-③-03\_研究戦略企画センター活動報告（令和 6 年 8 月 7 日運営会議抜粋）

資料 2-②-04\_外部資金獲得活動（令和 7 年 2 月 5 日運営会議資料抜粋）【再掲】

◇自己評価：

研究活動の目的等に沿った成果が得られていることを根拠資料で確認した。

観点 2-④ 研究活動等の実施状況や問題点を把握し、改善を図っていくための体制が整備され、機能しているか。

◇担当部署：

研究戦略企画センター（研究支援係、企画運営係）

◇自己点検結果：

整備、機能している

◇根拠資料：

資料 2-④-01\_令和 5 年度組織の目標と計画の実績報告（研究戦略企画センター）

資料 2-④-02\_令和 6 年度グループ研究申請について

資料 2-④-03\_研究成果発信のための国際会議参加費・論文投稿費支援について

◇自己評価：

研究活動等の実施状況や問題点を把握し、改善を図っていくための体制が整備され、機能していることを根拠資料で確認した。

### 3. 社会との連携や国際交流

---

#### (1) 社会との連携

観点 3-(1)① 地域貢献活動に関する目的等が適切に定められているか。

◇担当部署：

研究戦略企画センター（連携・国際交流係）

◇自己点検結果：

定められている

◇根拠資料：

資料 2-①-01\_仙台高等専門学校における研究活動・地域貢献活動の目的、基本方針【再掲】

資料 2-①-02\_仙台高等専門学校研究戦略企画センター規則【再掲】

資料 3-(1)①-01\_仙台高等専門学校公開講座規則

◇自己評価：

地域貢献活動に関する目的等が適切に定められていることを根拠資料で確認した。

観点 3-(1)② 地域貢献活動の目的等に照らして、活動が計画的に実施されているか。

◇担当部署：

研究戦略企画センター（連携・国際交流係）

◇自己点検結果：

実施されている

◇根拠資料：

資料 3-(1)②-01\_出前授業（広瀬キャンパス）のホームページコンテンツ

資料 3-(1)②-02\_連携関係年間計画

資料 3-(1)②-03\_出前授業実施状況

資料 3-(1)②-04\_公開講座実施状況

資料 3-(1)②-05\_課題解決型インターンシップ実施状況

資料 3-(1)②-06\_産学連携振興会事業報告

◇自己評価：

地域貢献活動の目的等に照らし、活動が計画的に実施されていることを根拠資料で確認した。

観点 3-(1)③ 地域貢献活動の実績や活動参加者等の満足度等から判断して、目的等に沿った活動の成果が認められるか。

◇担当部署：

研究戦略企画センター（連携・国際交流係）

◇自己点検結果：

認められる

◇根拠資料：

資料 3-(1)③-01\_公開講座アンケート結果の一例

資料 3-(1)③-02\_わくわく体験教室のアンケート結果

資料 3-(1)③-03\_課題解決型インターンシップの効果

◇自己評価：

地域貢献活動の実績や活動参加者等の満足度等から判断して、目的等に沿った活動の成果が認められることを根拠資料で確認した。

観点 3-(1)④ 地域貢献活動に関する問題点を把握し、改善を図っていくための体制が整備され、機能しているか。

◇担当部署：

研究戦略企画センター（連携・国際交流係）

◇自己点検結果：

機能している

◇根拠資料：

資料 3-(1)④-01\_日本青年会議所東北地区宮城ブロック協議会との連携協力協定の継続

資料 3-(1)④-02\_課題解決型インターンシップ検証

資料 3-(1)③-01\_わくわく体験教室のアンケート結果【再掲】

◇自己評価：

地域貢献活動に関する問題点を把握し、改善を図るための体制が整備され、機能していることを根拠資料で確認したが、公開授業や出前授業の発展に向けては、企画・運営人員の不足、教材準備のための予算不足といった課題が依然として残るため、予算措置や体制等について検討する必要があると考えられる。

## （2） 国際交流

観点 3-(2)① 国際交流に関する目的等が適切に定められているか。

◇担当部署：

国際交流委員会（連携・国際交流係）

◇自己点検結果：

定めている

◇根拠資料：

資料 3-(2)①-01\_中期目標、中期計画、年度計画（R6.6.5 運営会議資料抜粋）

資料 3-(2)①-02\_教育理念、教育目標、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー（2024 学校概要抜粋）

◇自己評価：

国際交流に関する目的等が適切に定められていることを根拠資料で確認した。

観点 3-(2)② 国際交流の目的等に照らして、活動が計画的に実施されているか。

◇担当部署：

国際交流委員会（連携・国際交流係）

◇自己点検結果：

実施されている

◇根拠資料：

資料 3-(2)②-01\_国際交流企画会議規則

資料 3-(2)②-02\_グローバル教育推進室規則

資料 3-(2)②-03\_各種会議・委員会等名簿（R6.4.10 運営会議資料抜粋）

資料 3-(2)①-01\_中期目標、中期計画、年度計画（R6.6.5 運営会議資料抜粋）【再掲】

資料 3-(2)②-04\_R6 年度グローバル教育推進室会議次第

資料 3-(2)②-05\_R6 年度グローバル教育推進室会議議事メモ

◇自己評価：

国際交流の目的等に照らし、活動が計画的に実施されていることを根拠資料で確認した。

観点 3-(2)③ 国際交流の実績や活動参加者等の満足度等から判断して、目的等に沿った活動の成果が認められるか。

◇担当部署：

国際交流委員会（連携・国際交流係）

◇自己点検結果：

成果が得られている

◇根拠資料：

資料 3-(2)③-01\_学術交流協定校一覧、交流等実績（2024 学校概要抜粋）

資料 3-(2)③-02\_2024 年度仙台高専海外活動支援事業成果報告会スケジュール（広瀬）

資料 3-(2)③-03\_2025 海外インターンシップ説明会資料（名取）

資料 3-(2)③-04\_派遣学生及び海外からの研修生のレポート記事

（Face book）<https://www.facebook.com/International.NITSC>

◇自己評価：

国際交流の実績や活動参加者等の満足度等から判断して、目的等に沿った活動の成果が認められることを根拠資料で確認した。

観点 3-(2)④ 国際交流に関する問題点を把握し、改善を図っていくための体制が整備され、機能しているか。

◇担当部署：

国際交流委員会（連携・国際交流係）

◇自己点検結果：

整備、機能している

◇根拠資料：

資料 3-(2)②-04\_R6 年度グローバル教育推進室会議次第【再掲】

資料 3-(2)②-05\_R6 年度グローバル教育推進室会議議事メモ【再掲】

◇自己評価：

国際交流に関する問題点を把握し、改善を図るための体制及び支援体制が適切に整備され、機能していることを根拠資料で確認した。

観点 3-(2)⑤ 学生に海外で学習する機会が提供され、有効に活用されているか。

◇担当部署：

国際交流委員会（連携・国際交流係）

◇自己点検結果：

活用されている

◇根拠資料：

資料 3-(2)⑤-01\_Teams での各種募集

資料 3-(2)⑤-02\_海外研修生の受入・派遣、令和 6 年度高専生海外活動支援事業（R7.2.26 グローバル教育推進室会議資料抜粋）

◇自己評価：

学生に海外で学術する機会が提供され、有効に活用されている。

#### 4. 施設・設備

---

観点 4-① 学校において編成された教育・研究組織の運営及び教育課程に対応した施設・設備が整備され、適切な安全・衛生管理の下に有効に活用されているか。

◇担当部署：

施設・環境マネジメント委員会（施設企画係、施設管理係）

◇自己点検結果：

整備している

◇根拠資料：

資料 4-①-01\_国立大学法人等施設実態報告\_様式 2

資料 4-①-02\_施設・環境マスタープラン会議規則

資料 4-①-03\_施設利用規則、共通スペース利用要項及び同指針

資料 4-①-04\_仙台高専キャンパスマスタープラン 2018（抜粋）

資料 4-①-05-1\_施設環境マネジメント委員会（広瀬）

資料 4-①-05-2\_施設環境マネジメント委員会（名取）

◇自己評価：

施設・環境マネジメント委員会において共通スペースの利用申請を審議し、その上位会議の施設・環境マスタープラン会議にて承認し、施設の有効活用に取り組んでいる。

また、仙台高専キャンパスマスタープランに従って予算要求を行い、広瀬キャンパス 7 号棟並びに名取キャンパス北寮・西寮の施設整備（改修工事）を実施している。

観点 4-② 教育内容、方法や学生のニーズに対応した I C T 環境が十分なセキュリティ管理の下に適切に整備され、有効に活用されているか。

◇担当部署：

情報基盤センター（情報企画係）

◇自己点検結果：

整備している

◇根拠資料：

資料 1-(2)④-02\_令和 6 年度時間割【再掲】

資料 4-②-01\_Phantosys 10 特長 \_ ワッセイ・ソフトウェア・テクノロジー

資料 4-②-02\_Web プロキシ構成図

資料 4-②-03\_独立行政法人高等専門学校機構サイバーセキュリティポリシー対策規則

資料 4-②-04\_名取キャンパス令和 6 年度特別教室時間割

◇自己評価：

広瀬キャンパスでは、教育用に Windows 10、Linux (Ubuntu) のデュアルブートのシンクライアントシステム（以下、教育用システム）を使用しており、授業や放課後利用に活用している。教育用システムは、3 部屋（5-102、8-401、11-202）に各 49 台のクライアント機が設置され、イメージ配信の利点を活かし、各部屋で行われる授業に合わせた複数の Windows イメージを使用している。また、再起動することで変更内容がクリアされるため、安全性が高い。教育用システムでは学外の Web サイトにアクセスする際にプロキシサーバを経由しており、危険度の高いサイトへのアクセスを防いでいる。また、高専機構の統合認証システム (AXIOLE) とアンチウイルスソフト (ウイルスバスター) を使用しているため、高専機構のサイバーセキュリティポリシー対策規則に沿った運用が行われている。また、広瀬キャンパスでは、学生の持ち込み端末による学内ネットワークへの接続を許可しているが、接続のためには登録が必要であり、持ち込み端末でのアンチウイルスソフト使用など、セキュリティ対策が必須となっている。

名取キャンパスでは、Windows OS の計算機端末 165 台からなる教育用演習システムを整備しており、全学年共通設備として授業や放課後の自学自習に活用されている。教育用演習システムは 5 年ごとに整備、更新している。令和 7 年 4 月には、1 台当たりのスペックを向上させた計 157 台構成への更新を予定しており、本年度は機種更新に必要な仕様策定や契約を行った。演習端末の設置場所は、演習室 3 部屋（5-301、5-401、11-105）、及び図書館端末コーナー（7-102）であり、全ての端末にアンチウイルスソフトがインストールされている。また、広瀬キャンパスと同様に、学生の持ち込みデバイスによる学内ネットワークへの Wi-Fi 接続には、デバイスでのアンチウイルス等対策ソフト使用を接続要件としたうえでユーザ認証とデバイス登録を必要とするなど、セキュリティ対策を必須としている。加えて、これら学生の利用する演習端末や所持デバイスからキャンパスネットワークを通じた学外 Web サイトへのアクセスについては、フィルタリングにより危険度の高いサイトへのアクセスを防止している。さらに、演習端末をはじめ各種システムの利用に必要なアカウントとパスワードについても全て高専機構のセキュリティポリシーに沿った運用が行われている。

観点 4-③ 図書、学術雑誌、視聴覚資料その他の教育・研究上必要な資料が系統的に収集、整理されており、有効に活用されているか。

◇担当部署：

図書委員会（図書係）

◇自己点検結果：

実施・整備している

◇根拠資料：

資料 4-③-01\_蔵書数（令和 6 年 5 月 1 日現在）

資料 4-③-02\_令和 5 年度図書・電子ブック受入冊数

資料 4-③-03\_所蔵雑誌種数（令和 6 年 3 月 31 日現在）

資料 4-③-04\_令和 6 年度購読雑誌一覧

資料 4-③-05\_令和 6 年度電子ジャーナル・データベース一覧

資料 4-③-06\_図書館における各種取り組み

資料 4-③-07\_図書館利用状況

◇自己評価：

両キャンパス合計で年間約 1,700 冊の図書を受け入れしており、自然科学・工学分野を中心に約 16 万冊の蔵書があるほか、電子ブックの整備も進めている。雑誌及び電子ジャーナルは購読希望調査を行い、需要と費用負担のバランスを考慮しながら整備を進めている。

学生が興味・関心を広げ、主体的かつ効率的に学べるよう、講習会や利用支援、各種イベント、学生選書なども積極的に実施している。年間の入館者数・貸出冊数はコロナ禍で一時的に落ち込んだものの、徐々に回復傾向にある。

## 5. 管理運営

---

観点 5-① 学校の目的を達成するために、教育・研究活動を将来にわたって適切かつ安定して遂行できるだけの財務基盤を有しており、活動の財務上の基礎として、適切な収支に係る計画等が策定され、履行されているか。また、学校の財務に係る監査等が適正に実施されているか。

◇担当部署：

事務部（管理課長補佐、財務係）

◇自己点検結果：

適正に実施されている。

◇根拠資料：

資料 5-①-01\_高専機構本部からの当初の支出予算示達額及び自己収入額一覧

資料 5-①-02\_令和 6 年度校内予算配分書

資料 5-①-03\_令和 5 年度予算執行集計表

資料 5-①-04-1\_会計監査人による監査覚書

資料 5-①-04-2\_会計監査人による監査覚書

資料 5-①-04-3\_会計監査人による監査覚書\_別紙

資料 5-①-05-1\_高専相互会計内部監査報告事項等一覧\_【措置報告】(別紙 6)03 釧路(監査校)←07 仙台(被監査校)

資料 5-①-05-2\_高専相互会計内部監査報告事項等一覧\_原議書 (公開講座実施伺\_3D プリンター)

資料 5-①-05-3\_高専相互会計内部監査報告事項等一覧\_原議書 (総合評価審査委員会議事録)

資料 5-①-05-4\_高専相互会計内部監査報告事項等一覧\_完了検査結果通知書\_仙台高専(名取) 寄宿舍  
(北寮・西寮) 改修設計業務

資料 5-①-05-5\_高専相互会計内部監査報告事項等一覧\_原議書 (完成検査結果通知書)

◇自己評価:

収入は運営費交付金及び間接経費で概ね安定している。校内予算配分案は運営会議で審議の上、決定している。

監査は、会計監査人による監査と高専相互会計内部監査を実施している。

観点 5-② 学校の目的を達成するために必要な管理運営体制及び事務組織が整備され、機能しているか。また、外部の資源を積極的に活用しているか。

◇担当部署:

事務部 (総務課長補佐、人事・労務係)

◇自己点検結果:

実施している

◇根拠資料:

資料 5-②-01\_内部組織等規則

資料 5-②-02\_運営会議規則

資料 5-②-03\_企画調整会議規則

資料 5-②-04\_事務組織規則

資料 5-②-05\_事務部事務分掌規則

資料 5-②-06\_教員人事委員会規則

資料 5-②-07\_後援会会則

資料 5-②-08\_広瀬キャンパス後援会会則

資料 5-②-09\_名取キャンパス後援会会則

◇自己評価:

管理運営体制として、校長の下に副校長、校長特別補佐、各センター・室長及び事務組織を配置し、役割を分担して円滑な管理運営を遂行している。

観点 5-③ 学校の教育・研究活動等の状況やその活動の成果に関する情報を広く社会に提供しているか。

◇担当部署：

広報企画会議（広報係）

◇自己点検結果：

実施している

◇根拠資料：

資料 5-③-01\_令和 2～6 年度 HP 掲載新着記事一覧

資料 5-③-02\_学校 HP トップページ

資料 5-③-03\_各種 SNS ホーム画面・更新履歴

資料 5-③-04\_令和 6 年度学校概要

資料 5-③-05\_キャンパスガイド 2024

◇自己評価：

令和 6 年 4 月に学校ホームページを全面リニューアルし、教員の教育・研究活動成果や学生の学修成果・課外活動成果、学校行事等を新着情報として掲載している。

ホームページは、本校の教育・研究に関する各種取組や授業の様子、学校の雰囲気をより印象的に伝えられるように写真を多く配置し、スマートフォンやタブレット端末利用時でも閲覧可能なレイアウトとしている。

また、各種 SNS (X、Instagram、YouTube) を活用し、新着情報よりもカジュアルな表現の文章で情報発信することで、本校への親近感を高めながら、ホームページ閲覧者以外のより幅広い層への学校認知度向上に繋げている。さらに、本校の基本情報を掲載した学校概要や、中学生及び保護者向けに学校生活等の情報を掲載したキャンパスガイドを刊行するとともに、ホームページにも掲載して公開している。